

みんなでも考えよう！  
書写指導①（毛筆編）

「課題解決型の  
書写学習」を  
はじめよう

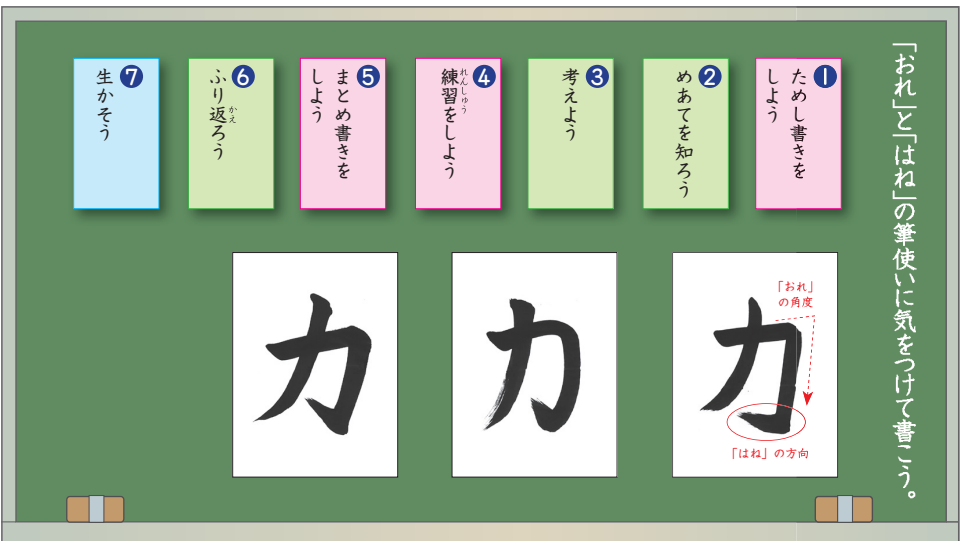
書字のポイントをつかみ、課題を  
解決する

書写の授業は、教材文字とそっくりに書く、黙って静かに黙々と書く学習ではありません。算数や理科などのように、課題解決型の流れで学習することが出来ます。毛筆で大きく書くことで、点画どうしの関係や字形を整えるためのさまざまな方法について理解し、深めることが出来ます。そして、学習したことを硬筆に生かしていくのです。

書写では、自分の文字をよりよく書くという明確な課題があります。自分の文字を基準となる文字と比べたり、書字の原理・原則に当てはめたりすることで、どのように解決していったらよいか分かります。毛筆の技能を習得することは必要ですが、その文字のポイントとなる点を理解し意識することで、課題を達成し、達成感を得ることが出来ます。

下記の流れで、一単位時間で行うことも可能ですが、準備や後片づけに時間がとられるため、二時間続きで行えるとよいです。

では、始めてみましょう。



学習の流れ

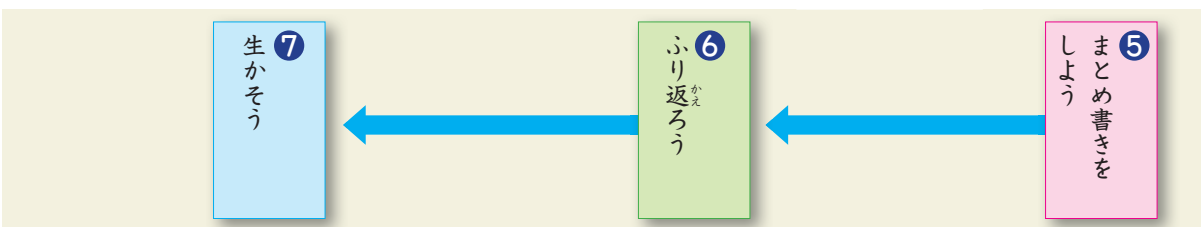
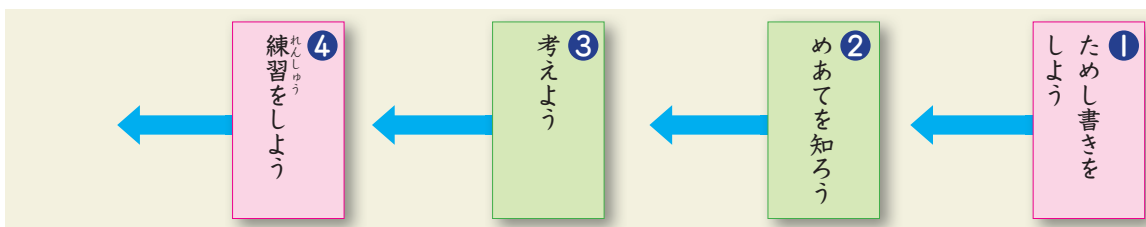


図1



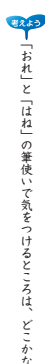
●学習の始めと終わりに書いてたしかめよう。

図2



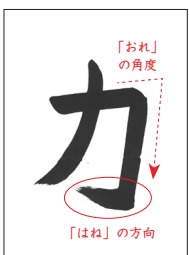
「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書こう。

図3



「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書こう。

図4



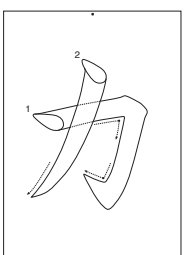
ためし書き

図5



悪い例を提示して課題点を考える。

図6



① ためし書きをしよう

本時で学習する教材文字を、何も見ないで半紙に書きます。硬筆での試し書きやめあてを、学習シートに書いてみましょう（図1）。

\*教材文字の漢字がわからない子のために、ヒントを黒板に書いたり、フラッシュカードのように文字を見せたりしてもよいでしょう。

② めあてを知ろう

本時のめあてを提示し、課題をつかみます（図2）。

③ 考えよう

試し書きと、基準になる文字とを比べて、どうしたら基準となる文字に近づけるか考えます（図3・4）。悪い例を提示して比べることもポイントに気づかせる方法の一つです（図5）。気づいたことを発表し、大切なポイントを理解します。そして、自己の課題を見つけ、自分のめあてを明確にもたせます。いくつかのめあてから自分にあてはまるものを挙手させたり、学習シートに書かせたりするとよいです。

④ 練習をしよう

課題に合った練習用紙を用意します。番号をふり、ホチキス留めをしておくとよいです。かご字や骨書き、筆使い、中心線の入っ

たものなど、3〜5枚ほど用意します（図6）。

その他、水書板で練習できるコーナーや、DVDを視聴できるコーナーなど、自己の課題を解決するためのコーナーを設けることができるとよいです。

⑤ まとめ書きをしよう

ポイントや課題をもう一度確認したあと、教材文字を見ながら文字を書きます（図7）。まとめ書きの端に名前を書くときは、鉛筆でもフェルトペンでも構いません。学習シートに硬筆でも書いてみましょう。

⑥ ふり返ろう

試し書きとまとめ書きを比較して、成果を確かめます（図8）。この時、本時のめあてのみに注目させます。本時の課題が達成できていれば、他の部分が多うまくできていなくてもよいのです。友達どうしで見合ったり、まとめ書きをクラス全体に紹介したりして、達成感をもたせます。

⑦ 生かそう

五十音表や漢字一覧表などから、本時のめあてと同じ要素をもつ文字を探して発表したり、書いたりして、日常に生かせるようにします（図9）。時間がないときは、普段の漢字指導などのときに学習したことにふれるようにすると意識が高まります。

図7



図8

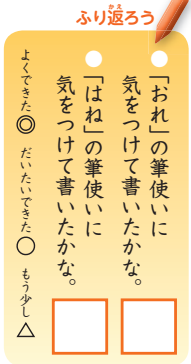


図9

野	分	同	風	船	少	止	公	強	絵	姉
天	間	道	長	線	場	中	広	教	外	妹
友	歩	読	鳥	前	色	寺	交	兄	角	引
弓	母	内	朝	組	食	新	光	近	楽	雲
用	方	何	直	走	心	親	考	形	活	園
曜	北	南	通	多	新	自	行	計	間	遠
方	肉	店	太	親	時	高	元	丸	黄	
理	明	羽	点	体	函	室	合	言	岩	科
話	鳴	馬	電	台	数	社	国	原	顔	夏
	毛	売	刀	弟	声	弱	今	戸	汽	家
	門	半	冬	谷	星	首	才	古	記	歌
	夜	番	当	池	晴	秋	細	午	帰	画
		父	東	地	切	春	作	後	牛	回
		香	京	池	雪	書	算	語	魚	会
		風		茶				工	京	海